

法科大学院生の LMS 利用状況と評価

—名古屋大学法科大学院 CANVAS 利用実態調査—

富崎 おり江¹⁾, 藤本 亮¹⁾

1) 名古屋大学 大学院法学研究科

The Use and Evaluation of Learning Management System

by Law School Students

-Students Survey of Nagoya University Law School "Canvas LMS" -

Orie Tomizaki¹⁾, Akira Fujimoto¹⁾

1) Graduate School of Law, Nagoya University

概要

2016年より導入した CANVAS LMS の利用状況とそれに対する評価についての法科大学院生対象の調査を実施した。その利用形態は法科大学院生の学習環境による影響が大きいことが示された。また、法科大学院生は LMS 利用に積極的であることがあきらかとなった。さらに、教員側に対するマニュアル的な「使い方」を越えて、LMS を活用してどのような教育課程や授業を設計して運用していくのかの検討が必要であることも示唆された。

1 はじめに

本研究の目的は、法科大学院生を対象に LMS の利用状況と利用意識を把握することにある。本研究により、LMS を活用した法科大学院教育の質保証に向けての取組みをさらに進めることができる。LMS を導入するだけでなく、その運用状況を把握し、改善に務めるべきことは教育の質保障の観点から法科大学院に限らず必要なことである。

名古屋大学大学院法学研究科では法科大学院を設置した 2004 年 4 月より、LMS を利用し、シラバス情報をインターネット上に公開してきた。導入から 12 年間に経ち、時間の経過と共に変化してきた教育ニーズへの対応と、セキュリティ対応の観点から、2016 年 4 月より Canvas という LMS に切りえた [1]。旧システムの運用を引継ぎ、すべての開講科目において次のような情報を Canvas 上で公開している。「講義基本情報」、「講義概要」、「到達目標」、「教科書」、「参考書・参考資料」、「成績評価方法」、「履修条件」、「注

意事項」、「講義計画 (15 回分)」である。このような情報提供に加え、授業実施にあたり Canvas をどの程度活用しているかは授業担当者によって異なるが、課題提出、資料配布、お知らせ (アナウンス)、ディスカッション機能など、旧システムにも実装されていた LMS に概ね共通する機能を利用し、授業の進行に役立てている科目も少なくない。このように旧システムにあった機能は Canvas 上でも利用されている。

LMS の利点はこのような情報提供・資料配布や課題提出、コミュニケーションペーパーによる双方向授業の実現といった紙ベースでの伝統的授業運用の簡便化にとどまらない。近年、高等教育において部分的に導入が開始されている「包括的評価 (Summative Evaluation)」から「形成的評価 (Formative Evaluation)」への重点の移行、コンピテンスベースでの教育課程や授業の設計 (CBE: competency-based education) などを実現するための重要なツールともなるものである。新システム Canvas に限らず最近の LMS には、こうしたニーズに対応するための e ポートフォリオ機能が実装

されており、今後、こうしたツールを活用しての法曹養成教育の改善を進めていく必要もあると考えている。

そのための基礎的研究の一環として、現時点での授業運用における LMS 利用について、院生がどのような意識を持っているかを調査し分析した結果をここに報告するものである。

2 方法

2.1 研究対象と調査方法

名古屋大学法科大学院の院生を対象とした。質問紙を各クラスの代表者に配布し、各クラスの代表者を通じ回収した。有効回答は全調査対象 86 名に対し、79 名であり、有効回答率は 88.4% であった。集計結果は表 1 にまとめた。

2.2 利用方法についての質問項目

法曹養成教育において Canvas を適切に活用するためには学生の IT 環境を把握しておくことは重要である。利用環境の把握には次のような質問を準備した。

「Canvas を閲覧する場所は主にどこですか？」という質問に対し、「自習室」「授業中」「図書館」「自宅」「通学中」「その他」から複数選択する形で回答してもらった。

「Canvas を閲覧するのに一番よく使う端末は？」の質問に対しては、「スマートフォン」「タブレット端末」「パソコン」「その他」から複数選択する形で回答を求めた。

2.3 利用機能についての質問項目

利用機能の把握には次のような質問を準備した。「課題提出機能は便利でしたか？」「資料をダウンロードできる機能がありますが便利でしたか？」「ディスカッション（掲示板）は便利でしたか？」これらの質問に対し「便利だった」「どちらでもない」「便利ではなかった」「利用した授業がなかった」「その他」の 5 件法での回答を求めた。

2.4 LMS 利用に対する期待についての質問項目

Canvas 利用に対する期待の把握には次のような質問を準備した。「Canvas の要綱や講義計画を掲載する以外の機能、（課題、ファイル、ダウンロードリンク、ディスカッション、アナウンス、クイズ）をもっと利用してほしいですか？」

これらの質問に対しては、「時間や場所を選ばず

に課題を提出したり、質問できるので利用して欲しい」「課題提出のために印刷しなくてもいいから利用して欲しい」「配布資料や課題の整理が簡単になるから利用して欲しい」「煩雑になるので利用しないで欲しい」「課題の提出がちゃんとできているか不安になるので利用しないで欲しい」「ディスカッション機能を利用するのは、質問を他人に読まれるので利用しないでほしい」「その他（自由記載）」の項目について複数回答方式で回答してもらった。

また、「Canvas のページデザインは操作しやすい（わかりやすい）ですか？」の質問については「とても操作しやすい」「操作しやすい」「普通」「操作しにくい」「とても操作しにくい」「その他（自由記載）」の 6 件法での回答を求めた。

3 結果

自由記載欄の項目への回答が 1 年生では全くなかったのに対し、2 年生（3 年コース 2 年、2 年コース 1 年）は 30 名のうち 6 名、3 年生（3 年コース 3 年、2 年コース 2 年）は 39 名のうち 24 名からの回答があった。上級生の方が LMS を利用した法曹養成教育を受けた経験が多く、具体的な意見を述べる傾向があったと考える。同一内容のコメントが 3 件以上あったものは、「資料掲載方法を統一してほしい」が 7 件、「資料等を掲載したときの更新情報がほしい」が 3 件、「教員に Canvas 利用の指導をしてほしい」が 6 件、「一度登録したコースを中止する方法の教示が必要」が 4 件であった。

4 考察

利用環境の調査結果では、大学の自習室が一番多く、次に自宅、授業中の順であり、大学でより利用する傾向にあることが確認できた。法科大学院生は専用の自習スペースが提供されていることもあり、大学で過ごす時間が多いことを反映していると考えられる。利用する端末はパソコンが一番多く、次はスマートフォンであった。タブレット端末の利用が低いのは予想外であったが、これは所有ないし利用している機器の多寡によるものと思われる。自習スペースがあることから授業にパソコンを持参することが、学部生と比較して容易であるということもこうした結果の背景にある。 (筆者：藤本が担当する他大学での学部の大

表1 Canvas 利活用アンケート結果（学生）

①Canvasを閲覧する場所は主にどこですか？（複数回答可）	人数	パーセント
自習室	65	45%
授業中	28	19%
図書館	3	2%
自宅	41	28%
通学中	7	5%
その他	0	0%
②Canvasを閲覧するのによく使う端末は（複数回答可）		
スマートフォン	28	28%
タブレット端末	3	3%
パソコン	69	69%
その他	0	0%
③課題提出機能は便利でしたか？		
便利だった	39	51%
どちらでもない	26	34%
便利ではなかった	9	12%
利用した授業がなかった	0	0%
その他	2	3%
④資料をダウンロードできる機能がありますが便利でしたか？		
便利だった	30	40%
どちらでもない	25	33%
便利ではなかった	13	17%
利用した授業がなかった	0	0%
その他	7	9%
⑤ディスカッションは便利でしたか？		
便利だった	7	9%
どちらでもない	16	22%
便利ではなかった	13	18%
利用した授業がなかった	37	50%
その他	1	1%
⑥Canvasの要綱や講義計画を掲載する以外の機能、（課題、「ファイル」ダウンロードリンク、ディスカッション、アナウンス、クイズ）をもっと利用してほしいですか？（複数回答可）		
時間や場所を選ばずに課題を提出したり、質問できるので利用して欲しい	30	30%
課題提出のために印刷しなくてもいいから利用して欲しい	25	25%
配布資料や課題の整理が簡単になるから利用して欲しい	19	19%
煩雑になるので利用しないで欲しい	13	13%
課題の提出がちゃんとできているか不安になるので利用しないで欲しい	4	4%
ディスカッション機能を利用するのは、質問を他人に読まれるので利用しないでほしい	3	3%
その他	7	7%
⑦Canvasのページデザインは操作しやすい（わかりやすい）ですか？		
とても操作しやすい	8	11%
操作しやすい	13	18%
普通	25	34%
操作しにくい	17	23%
とても操作しにくい	8	11%
その他	3	4%

講義では、受講生の大多数がスマートフォンを利用できる状況にあり、それを用いて授業中に LMS を活用できているといった例もある。) また、法科大学院の授業のレジュメが Word ファイルで配布されることが多く、授業のノートをそのファイルに書き込みながら受講する院生が少なくない。その際の入力の便からパソコンを利用する傾向が強まっているとも考えられる。

第二に利用機能の把握の調査結果から Canvas を利用した課題の提出や資料のダウンロードは便利と感じていることが示された。空間的・時間的な効率性は利用者からも高く評価されているといえる。

ディスカッション (掲示板) はあまり利用されていない傾向にあることがわかった。授業で利用されたとしても便利と評価した人数より便利ではないと評価した人数の方が多いため、現時点ではディスカッション (掲示板) は不人気の機能であり、利用方法に改善の余地があるとうかがえる。コミュニケーションペーパーは多くの紙ベースの授業でも用いられ、双方向授業の実現の一助となっている。コミュニケーションペーパーは授業終了時に書いて提出することが多い。それに対して、ディスカッション (掲示板) は授業終了後に別途記入することが多く、また他の受講生の書き込みをみるためには再度アクセスする必要もある。口頭で質問するよりもまとまった文章を作成することに対する時間的・精神的負担もあろう。また、掲示板には教員の積極的なリスポンスがあってもこそ双方向・多方向のコミュニケーションが実現でき、また受講生のディスカッション (掲示板) への記入のインセンティブにもなりうるものである。しかし、教員にとっては追加の負担となると考えられていると推測され、積極的にディスカッション (掲示板) を利用しようとすることに結びついていない。(なお、授業後の口頭でのさみだれの質問へのリスポンスと比べれば、ディスカッション (掲示板) での質疑応答は、教員にとってみれば一度回答すればよいので負担は軽減される面もないわけではない。)

コミュニケーションペーパーは個々の受講生と教員を結びつけるものであるが、他の受講生がどのようなコミュニケーションを教員と行っているのかはわからないし、授業中の質疑応答のような多方向コミュニケーションではない。こうした観点からも、多方向を実現できるディスカッショ

ン (掲示板) 機能の活用方法は今後検討が求められるところである。

Canvas 利用に対する期待値の把握の結果は、「時間や場所を選ばずに課題を提出したり、質問できるので利用して欲しい」30%、「課題提出のために印刷しなくてもいいから利用して欲しい」25%、「配布資料や課題の整理が簡単になるから利用して欲しい」19%であった。この結果から学生は授業受講にあたり IT 機器を大いに活用していることがうかがわれ、その関係で LMS 利用について積極的であることが示されているといえよう。

第三に自由記載にもかかわらず、「資料掲載方法を統一してほしい」とのコメントが 7 件、「教員に Canvas 利用の指導をしてほしい」のコメントが 6 件もあった。LMS の多様な機能を活用し、授業運用の効率化に資するのみならず教育効果を高めることも図ろうとすれば、授業を担当する教員に対する研修も必要であることが示されている。それは単に LMS のマニュアル的な「使い方」にとどまらず、その機能を活かして、授業を改善し、教育の質の保障につなげていくという視点からなされる必要がある。

5 まとめと今後の課題

本研究では、本学の法科大学院生を対象に Canvas の利用状況と利用意識調査結果を報告した。その結果、法科大学院生は LMS を導入・活用することに前向きであることが分かった。

ここに報告した大学院生対象の調査と並行して行った教員へのヒアリングでは学生から「Canvas をもっと利用して欲しいといわれれば利用する」「FD などを使い方を説明してくれれば授業で利用しようと思う」「今後も利用する」といった意見が多数寄せられている。

同様に教員からは、「直接対象ではないが、大学院総合法政専攻 [2] や学部についても学生側に Canvas の利用が周知されておらず、それもあって教員側の利用も徹底されていない。中途半端な状態では無駄な作業をすることになるので Canvas を使うなら使うで徹底すべき」といった意見も寄せられた。法科大学院の授業を担当している教員は学部および大学院の他専攻の授業も一部担当している。学部等で活用しようすると受講生から「使ったことがない」という反応があるために、

このような意見が寄せられたと推測される。教員からみても受講生からみても LMS を使う授業とそれを使わない授業が混在することは、コスト増につながる。さらに、専任の教員のみならず、法学部・法学研究科全体の教育課程にかかわる非常勤講師や TA も含めて、LMS を活用していく体制を確立していくことも求められよう。また、法科大学院の授業で旧システムでは提供されていなかった e ポートフォリオのような機能が利用されるようになると、学部や大学院総合法政専攻においてもそれは波及していくと期待できる。

筆者は、Canvas は直観的に操作できるように設計されているとの認識をもっていたため、操作説明はそれほど必要ないと考えていた。今回の調査結果から、Canvas の操作説明はもちろん、それをふまえて授業設計や運用をいかに改善していくのかといった教育方法論までを含めた FD を実施し、啓蒙していくことが求められていることが明らかとなった。

参考文献

- [1] 教育ニーズの変化に対応可能なオープンソース LMS の導入，富崎 おり江 [名古屋大学]，小村 道昭 [株式会社エミットジャパン]，日本教育工学会 第 31 回全国大会，2015 年，p228
- [2] 名古屋大学大学院法学研究科は総合法政専攻と実務法曹養成専攻（法科大学院）の 2 つの専攻がある。総合法政専攻は研究者養成コース、応用法政コース、国際法政コースの 3 つのコースがあり目的に応じた専門教育・研究が行われている。